

新春を迎えて

村上彦二

昭和60年の新春を迎えるに当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、ご家族ともどもご健勝にて新年を迎えられましたことと、心からお喜び申し上げます。

道内の木材市況は、春なおいまだしの感がございますが、皆様方のご努力により、社業の一層のご繁栄を祈念申し上げます。

当協会が発足して20年が経過しましたが、この間、北海道の林力は激しく変化しました。林産業界もこの変化への対応が望まれますが、そのバックボーンとなっている北海道立林産試験場が、業界のかねてからの要望がかなって、昭和61年、旭川市西神楽に竣工の予定となりましたことは、誠に喜ばしいことです。

皆様方には、日頃、当協会に対し、格別のご支援、ご協力を頂いておりますが、本誌先月号に協会記事として報告のとおり、去る11月1日の通常総会は140余名の方々のご参集を得、議事と講演会を盛会のうちに終了させて頂きましたこと、厚くお礼申し上げます。

また、当協会の前年度事業計画では、50名の新会員の加入促進をあげておりましたが、このことについて北海道林務部、道内各林務署・各支庁林務課、道立林産試験場の関係官庁、及び北海道森林組合連合会、同木材協会、栄林会等各団体の皆様方のご配慮をいただき、184名の新会員を迎えることが出来ましたこと、改めて厚くお礼申し上げます。

一方、かねてから懸案となっておりました月刊誌ウッドエイジ（木材の研究と普及）は、表紙、内容ともに一新、会員の皆様方から読み易くなったと好評をえているようで、うれしく存じます。“木材の良さ”に続き“広葉樹”特集号、テクニカルノート“木材乾燥（基礎編）”の改訂版、冊子“北海校倉ハウス”など順次発行いたす予定であり、一層ご活用いただけるよう努力を重ねたいと思っております。

当協会の前年度事業で特筆すべきことは、間伐小径木の利用促進、付加価値向上を目標とした丸太小屋が「北海校倉ハウス」の名称で、全国に先がけて建設省の特認をえたことでしょうか。このことについて、ご尽力下さった北海道林務部、道立林産試験場の関係者の方々に謝意を表しますとともに、本誌の表紙裏面に今月から年間広告として掲げました4社との産・学・官の協力体制により、広く需要者のご要望にこたえるようになったことは意義深いことです。

そのほか、シラカバを原料とする飼料の研究体制への継続参加や乾燥・北海校倉ハウス講習会の開催、道立林産試験場が道内各地で実施を計画している「林産技術交流プラザ」への積極的な協賛、北海道製材協同組合主催の高次加工研修会に参加された若手・中堅技術者の会（名称キッツキ会）の方々の会員としての加入とこの会への後援など、当協会事業の充実をはかり、会員の皆様方のご要望にこたえるよう努力を重ねてまいりたいと考えております。

なにとぞ今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願いを申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

—北海道林産技術普及協会 会長—